

- 測定結果2・3面
- 家庭で出来る低減対策4面

2012年 7月14日(土) 放射能対策特別号
 (平成24年)

広報いちかわは新聞折り込みでお届けするほか、市内各駅の広報スタンドと公共施設で配布しています。入手困難な方で自宅への配布をご希望の場合は、広報広聴課へお問い合わせください。

放射能対策を着実に推進



低減対策として効果のあった天地返し（大和田小学校）



低減対策のひとつ、芝の深刈り（山桜公園）

市では、昨年11月に改訂した「市川市放射線量低減の取り組みに係る基本方針」とその実施計画で、公共施設で目標とする年間追加被ばく線量を1mSv以下と定めました。現在、この目標を達成するため、低減対策を行う目安値を0.23μSv/時とし、この数値以上となった場合には低減対策を優先的に進めています。

また、内部被ばく対策として、給食や農産物などの放射性物質検査を定期的に行っています。（放射能対策課）

具体的な取り組みと現在の状況

1 対策実施後、子ども関連施設で「目安値を下回る」

市では、低減対策実施の目安値を、公園で0.23μSv/時、小・中学校、幼稚園、保育園の校庭などでは更に厳しい0.19μSv/時としています。昨年の測定で、小学校6校、保育園3園、公園73カ所で目安値を超えたため、これらの施設で天地返しや草刈りなどの低減対策を実施しました。その結果、今年3月以降はすべての子ども関連施設で目安値を下回っています。

2 給食や市内農産物で「国の基準値を下回る」

小・中学校や保育園などの給食の検査では、給食食材の他、実際に提供された給食1食分を1週間まとめて検査しています。これまで放射性物質は検出されていません。

また、市内産の農産物では、代表的な作物を市や県で検査しています。これまで検査したすべての市内産農産物で、一般食品の基準値を下回っています。

3 定点調査では「2月以降0.23μSv/時未満」

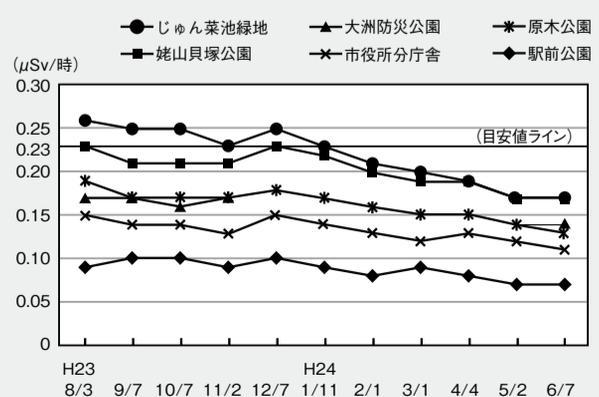
市内の空間放射線量の推移を確認するため、市内6地点の定点調査を週1回行っています。下のグラフを見ると、北部地区ほど線量が高い傾向が見られます。

4 毎日の水道水検査で「放射性物質検出されず」

県水道局では原則的に毎日、水質検査を行っています。原子力発電所事故直後を除き、放射性物質は水道水から検出されていません。

関東水道局浄水課

市内定点の空間放射線量調査（測定高さ:50cm）



※1~3の詳細は2・3面をご覧ください

向はありますが、今年2月以降は目安値である0.23μSv/時未満となっています。

市民のみなさんにおかれましては、日頃より、市川市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。



市長 大久保 博

本特別号は、小さなお子さんをお持ちの家庭を中心に多くのみなさんが不安に感じ、多数のご意見をいただいております放射能対策について、より深いご理解をいただきたいと考え、発行させていただきました。

市では、放射能対策に取り組むため、昨年11月に放射能対策担当室を設置し、また、本年4月には、市長直轄の組織である危機管理室の中に放射能対策課を設置し、市民のみなさんのご協力のもと、放射線量の低減対策等に努めてまいりました。

今後も引き続き、局所的に放射線量が高い場所については低減対策を行うとともに、学校等の給食や食材、プールの水、市内産の農産物、河川や海に堆積している土などの放射性物質の検査を継続し、調査結果を公表してまいります。

市民のみなさんが安心して暮らすことができるよう、全力で取り組んでまいりますのでご理解、ご協力をお願いいたします。